

36th PIA FILM FESTIVAL



世界はひとつ...じゃない! 新しい価値を発見する映画祭 第36回ぴあフィルムフェスティバル

2014/09/13[土]-09/25[木] *月曜 休館 / 東京国立近代美術館フィルムセンター

銀座線「京橋駅」、都営浅草線「宝町駅」より徒歩1分 / 有楽町線「銀座一丁目駅」より徒歩5分 / JR「東京駅」より徒歩10分

主催: PFFパートナーズ **ぴあ** **ホリプロ** **NIKKATSU** / **UNI/JAPAN** 公益財団法人ユニジャパン

共催: **東京国立近代美術館フィルムセンター** 特別助成: **ESCA** 一般社団法人映画演劇文化協会 特別協賛: **SEGA-SAMMY GROUP**

PFFサポーターズ: **KLOCK WORK** / **TOPPAN** / **BS日本映画専門チャンネル** / **ROBOT** / **Creaito** / **夜景検定** / **朝日新聞**

後援: 一般社団法人日本映画製作者連盟 / NPO法人 映像産業振興機構 (VIPO) / 協同組合 日本映画監督協会 協力: 早稲田大学 / **WAVE** **BS-3FM** / 日本映画ペンクラブ

<http://pff.jp/36th/> **Cofesta**

【コンペティション部門】

本年「PFFアワード2014」には、528作品の応募をいただきました。4か月の審査期間を経て厳選された21作品から、あなたのための1作品に遭遇してください。21世紀の自主映画、驚くほどのエンターテインメントです。

いま、あなたが映画だと思っものが映画。そんな時代の到来を目撃!

PFFアワード2014

👑 表彰式&グランプリ作品上映 ▶ 9月25日[木]16:30~

PFF Award

A



『ナイアガラ』

27分/カラー

監督: 早川千絵 (37歳/東京都出身)

大丈夫、恐れることなどなにもない

18歳になった女の子やまめは、施設を出る直前に祖父母の存在を知る。祖父は死刑囚で、祖母は認知症。という事実を、驚きも落胆もせず受け入れる彼女の前向きさに、

まず引きこまれる。祖母を介護する青年が録音する、街中の何気ない日常の音の愛おしさから、生きている有難みを実感、感動がじんわり胸に沁み込んでいく。

▶ 9/13[土] 11:30~
▶ 9/17[水] 18:30~



『人に非ず』

65分/カラー

監督: 矢川健吾 (26歳/神奈川県出身)

これは殺戮か? それとも生態系の法則か?

小笠原諸島の父島にある観光客向けホテル・ホライズンにひとりの新人従業員がやってくる。彼は、海と山の豊かな自然に囲まれた一見のどかに見える日常生活の

裏に、閉鎖的な環境からくる陰鬱な人間関係があるのを垣間見る。その一方で、彼にはこの島で実行しなければならぬ密かな計画があった…。

PFF Award

B



『ひこうき雲』

25分/カラー

監督: 柴口 勲 (46歳/福岡県出身)

演じることで、学校が、別の世界にかわっていく

とある中学校の教室で、ビリビリと破かれる修学旅行の予定表。破って捨てたのは一体誰…? そのとき、ひとすじのひこうき雲が空を横切る。見上げているのは、羽化

を待つ少女たち。皆、いずれ遠くへと羽ばたいてゆく子供たちだ。柔らかな殻をいま破らんとしている彼女らの目は、どんなときも、前を見つめている。

▶ 9/13[土] 14:30~
▶ 9/17[水] 15:30~



『埋み火』

32分/カラー

監督: 山内季子 (24歳/青森県出身)

あなたに再会した日から、私が静かに発火する

田舎町のスーパーで魚をおろし続ける比富美は、小さなアパートで寝たぎりの母親を介護中。東京から戻った大輔との再会で、心の奥深くに埋めていた希望の光に手を伸

ばそうとするが…。20代半ばで介護に縛られる閉塞感を、手を洗うという行為で表現。比富美の未来に光が射すよう心を込めてエールを送りたい気持ちにさせられる。



『反駁』

51分/カラー

監督: 伊之沙紀 (30歳/神奈川県出身)

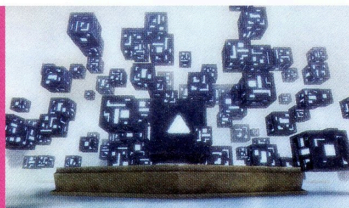
ノストラダムスがこなかったから、私たちは…

1997年7月、ノストラダムスの預言の降臨の如く渋谷の路上に現れた通り魔。そこで遭遇した受験地獄にいた4人の小学生が最高学府で再会し、過去の忌わしき記憶

に翻弄される。人間の精神の闇を希求しながらも、映画はそれを遙かに越え、逃れ得ぬ運命の領域にまで到達する。群を抜く不穏さと緊張感に満ちた異形の映画。

PFF Award

C



『小さな庭園』

12分/カラー

監督: 斎藤俊介 (29歳/千葉県出身)

小さな主人公が、大きな決断を迫られる

片眼の主人公が目覚ますとそこにはいつもの庭園があった。アニメーションの最前線はエッジの効いた3D CGばかりではない、高度なテクニクを感じさせず、想

像の別次元へトリップさせることこそ新しい。SFでもありアドベンチャーでもあり、生命と宇宙を繋ぐ混沌と秩序。小さな世界の壮大な物語がここにある。



『暁の石』

30分/カラー

監督: 清原 惟・飛田みちる (21歳/東京都・茨城県出身)

少女たちは微熱のような夏とたわむれる

母が失踪して三ヶ月の佳子は、大量の魚の死体が浮かぶ不気味な沼で幼馴染みの光子と再会し、昔のように、沼、図書館、「神殿」と呼ぶ廃屋などで無為の戯れに興じる。

映画はその少女たちの戯れを通じて、生活の何処にも属さない、あどなき時間そのものを鮮やかに浮かび上げらせ、戯れる少女たちの姿はただひたすらに眩しい。

▶ 9/13[土] 18:00~
▶ 9/17[水] 12:00~



『ガンバレとかうるせえ』

70分/カラー

監督: 佐藤快磨 (24歳/秋田県出身)

爽やかでも健やかでもない だから…

サッカー部のキャプテンと女子マネージャー。2人は最初から最後まで、「試合に出る」という情熱を弛まず持ち続け、それを貫き通す。スポ根映画の類ではない

ので派手なドラマは起こらないが、全編に渡って若い人間の息づかいがあり、特に、2人の射貫くような視線の真っ直ぐさには幾度もはっとさせられた。

PFFアワード2014各賞

グランプリ(副賞100万円)、準グランプリ(副賞20万円)、審査員特別賞(副賞10万円/3作品)、

映画ファン賞(びあ映画生活賞)、エンタテインメント賞(ホリプロ賞)、ジェムストーン賞(日活賞)、NEW 観客賞

特別設置:日本映画ペンクラブ賞

※各賞とも豪華副賞

第36回 PFF

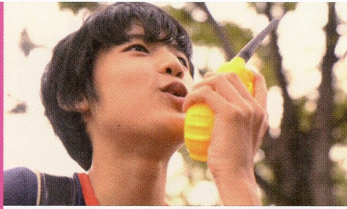
検索

※監督の年齢は応募時のものです。

※上映後、来場監督とのトークを予定しています。

PFF Award

D



『彼は月へ行った』

19分/カラー

監督: 藤村明世 (23歳/東京都出身)

アポロごっこがおわるとき、はじまるもの

親友・優一を亡くして他人に心を開かなくなった主人公・順は、子供時代に優一と遊んだトランシーバーでのアポロ通信ごっこを独りでいつまでもやっていた。ある日、ま

た学校でこっそりトランシーバーで喋っていると、トランシーバーに謎の返信が…女の子の声だ。とまどう順だったが、やがてその声だけの少女に心を開いてゆく…

▶ 9/14[日]
11:30~
▶ 9/18[木]
15:30~



『丸』

89分/カラー

監督: 鈴木洋平 (29歳/茨城県出身)

それは凶報か福音か? 丸はやってきた

平凡な一軒家で発生した父子心中未遂事件。父親のみが銃で自殺し、現場にいた次男・鉄男とその恋人・百合子は、その事件以来、文字通り時間が静止してしまう。

記者・出口は独自に調査を進めるうち、不条理極まりない世界へ迷い込む…。それを見ると時間が止まり、世界が歪む。不穏な丸の正体は、観る者の解釈そのもの。

PFF Award

E



『波伝谷に生きる人びと』

134分/カラー

監督: 我妻和樹 (28歳/宮城県出身)

その土地で生きる困難と、生きる甲斐

海と共に生きる人びとの濃密な小世界。3.11までの3年間、南三陸町の波伝谷部落を一通に追ったドキュメンタリーは、彼らが頑に守り続けてきた共生のあり方にひずみ

が生まれつつある事実を浮かび上がらせる。ほころびは揺れ動く前からあったのだと痛みと共に思い知る。波伝谷は我々と同じ時間軸にあることを忘れてはならない。

▶ 9/14[日]
14:30~
▶ 9/18[木]
12:00~



『乱波』

5分/カラー

監督: 中島悠喜 (23歳/東京都出身)

愛も、モラルも自由もなく、これぞ忍者の最前線!

5分間の壮絶な忍者軍団vs忍者軍団の死闘! 忍者が走る! 跳ぶ! 手裏剣が飛ぶ! 腕が飛ぶ! 首も飛ぶ! その超人的アクションは実写では撮影不可能! SFXでもワイ

ヤーアクションでも実現困難であろうリアルな忍者バトルが、手描きのアニメーションで次々と実現されてゆく衝撃! 忍者の真実を見なければこの「乱波」を見るべし。

PFF Award

F



『怪獣の日』

30分/カラー

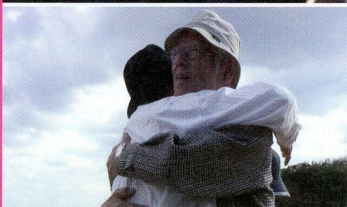
監督: 中川和博 (27歳/奈良県出身)

映画にするとみえてくる、この国の現実

太平洋沖に出現した怪獣は、自衛隊と米軍による作戦でなんとか活動を停止。その沈黙した未知の巨体は、やがて日本沿岸に漂着する。怪獣の処理をめぐってそ

の町に巻き起こる議論と対立がメタファーであることは明快だ。"311"以降に生まれるべくして生まれた、最も真摯で社会派な「怪獣映画」と言えよう!

▶ 9/14[日]
18:00~
▶ 9/19[金]
12:00~



『沖縄／大和』

98分/カラー

監督: 比嘉賢多 (22歳/沖縄県出身)

僕とあなたを隔てるラインはどこにある?

沖縄に生まれ育った監督は、沖縄と本土の間にある心理的な境界線存在を仮定し、それを追求するドキュメンタリーの制作を始める。そこで出会う人々の言葉や顔か

ら浮かび上がってくるのは、沖縄と日本本土の政治的な歴史ばかりではなく、豊かな民俗学的考証でもあり、そこに生きる個々人それぞれが持つ小さな歴史でもある。

PFF Award

G



『多摩丘陵の熊』

32分/カラー

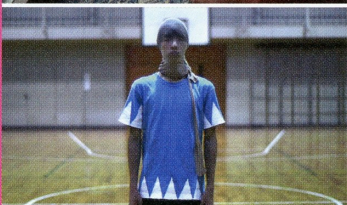
監督: 岡 真太郎 (29歳/千葉県出身)

冬が過ぎるまで、熊はこんこんと眠る

多摩丘陵に暮らす兄と弟。両親の死後、生家である団地に戻り2人きりの生活を営んでいた。兄は恋人が浮気相手と旅行中に事故死したことが原因で失声症となる。季節

は冬。弟は兄の回復を待つが…。高台から見晴らす風景、兄弟が興じる釣り、春の光に掛けかけた雪—それらはすべて、自然と共に自由に生き死ぬことを肯定している。

▶ 9/16[火]
12:00~
▶ 9/19[金]
18:30~



『独裁者、古賀。』

79分/カラー

監督: 飯塚俊光 (33歳/神奈川県出身)

絶対的距離感を壊すには、近づかない

希薄な存在感ゆえにクラスのいじめられ役である古賀。古賀をかばったがために、いじめの標的となる女子生徒、副島。二人が惹かれ合う理由は、純粋な恋心か、それと

も傷の舐め愛か? 愛で(たぶん)世界は変わらない。ならば自分が変わるしかない。きっかけは自己満足でいい。副島さんへの想いを証するため、古賀は変わるか!?

Special Program

Invited Works

世界が湧いた 「羽仁進監督特集」

世界中のドキュメンタリー作家たちの神話となった短編記録映画の諸作、演技を超えてその人物の「かくれた、ほんとう」を浮かび上がらせる劇映画の数々。ジャンルを飛び越える実験と挑戦の大胆さと繊細さ。今、改めて羽仁進をみる！上映後、対談やトークを予定しています。

監督：羽仁進（はに・すすむ）

1928年生まれ。岩波映画製作所設立に参加。教育・記録映画を手がけ注目され、その後ドキュメンタリーの手法を多用した劇映画で、高い評価を得る。長くアフリカに通い動物を記録するなど、その活動の幅も大きい。近年海外で新たな注目を集めるなど、今、最も再評価の気運高まる日本の監督である。



監督
来場予定

『教室の子供たち』

▶9/21[日]12:00~



1954年/35mm/モノクロ/29分
監督・脚本：羽仁進/撮影：小村静夫

日本に於けるドキュメンタリーの概念を覆した、羽仁進の代表作。小学2年生の教室をみつめる監督の「眼」は、カメラなどまるで意識しない、活き活きとした子供たちの姿を捉える。その圧倒的なみずみずしさに驚嘆！

『恋の大冒険』

▶9/23[火・祝]11:30~



1970年/35mm/カラー/93分
監督・脚本：羽仁進/脚本：山田宏一、渡辺武信/撮影：奥村祐治/出演：今陽子、佐良直美、由紀さおり

恋を求めて憧れの東京にやってきた少女に巻き起こる騒動を描いたミュージカル・コメディ。共同脚本を映画評論家の山田宏一、渡辺武信が務め、和田誠による美術とアニメーションも登場する刺激的な快作であり怪物。

ゲスト
来場予定

ゲストの詳細は決定次第、HPにて発表します。

『絵を描く子どもたち』

『教室の子供たち』と併映



1956年/35mm/パートカラー/38分
監督・脚本：羽仁進/撮影：小村静夫

小学1年生の図画工作の授業の中で、表現する楽しさに目覚め、恐る恐る何かを語り始める子供たちを捉えた記録映画。人生に一度きりのその一瞬が鮮やかに焼き付けられている。1956年キネマ旬報短編映画ベストテン第1位。

ゲスト
来場予定

ゲストの詳細は決定次第、HPにて発表します。

『初恋・地獄篇』

▶9/23[火・祝]14:30~



1968年/35mm/パートカラー/107分
監督・脚本：羽仁進/脚本：寺山修司/撮影：奥村祐治/出演：高橋章夫、石井くに子、満井幸治

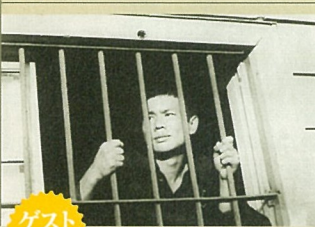
養護施設で育った孤獨な少年シュンと奔放な少女ナナミの初恋を綴る青春映画。羽仁進と寺山修司が共同でオリジナル脚本を執筆。ドキュメンタリーや隠し撮り、8mmフィルムなど実験的な手法を交え、熱烈なファンを持つ1本。

ゲスト
来場予定

山本政志監督来場！
ゲストの詳細はHPにて。

『不良少年』

▶9/21[日]18:00~



1961年/35mm/モノクロ/89分
監督・脚本：羽仁進/撮影：金宇満司/出演：山田幸男、吉武広和、山崎耕一郎

非行少年のシャバでの生活と少年院での姿を描いた初の長編劇映画。全く無名の不良少年達を起用し、ドキュメンタリーの手法を用いた新たな作風は、多くの映画人に衝撃を与え伝説に。1961年キネマ旬報ベストテン第1位。

ゲスト
来場予定

諏訪敦彦監督来場！
ゲストの詳細はHPにて。

“見えない特撮”って何？ 「素晴らしい特撮の世界」

CG全盛の今改めて「ミニチュア撮影」や、自然現象を演出する「操演」など、観客からは“見えない”特撮の舞台裏と手仕事へのこだわりを、まさかの豪華ゲストが、特別に上映する2作品や自身の参加作品を題材に、縦横無尽に語る特別二部構成豪華プログラム再び登場！これはやばい……

ナビゲーター：犬童一心（いぬどう・いっしん/映画監督）
「ジョゼと虎と魚たち」「メゾン・ド・ヒミコ」「ゼロの焦点」「のぼうの城」など。

パネラー：尾上克郎（おのうえ・かつろう/特撮監督）
「日本沈没」「のぼうの城」「巨神兵東京に現わる」「進撃の巨人」など。

佛田 洋（ぶつだ・ひろし/特撮監督）
「仮面ライダー」シリーズ、「スーパー戦隊」シリーズなど。

樋口真嗣（ひぐち・しんじ/映画監督）
「ガメラ 大怪獣空中決戦」「ローレライ」「のぼうの城」「進撃の巨人」など。

矢口史靖（やくち・しのぶ/映画監督）
「ウォーターボーイズ」「スウィングガールズ」「ロボジー」「WOOD JOB!〜神去なあなあ日常〜」など。

ゲスト
来場予定

こんな映画をつくった人たちが、2本の映画上映と、合計2時間を超えるトークで伝える、特撮の力！

第一部『WOOD JOB!』のひみつ大公開 ▶9/20[土]11:00~

また劇場公開が記憶に新しい本作の、あのシーンはどうやって完成したのか？命がけの撮影の秘密が今明かされる！全員一緒に「WOOD JOB!」をみて、一緒にその秘密をわけあう、スリリングなここだけの時間の到来！



『WOOD JOB! ~神去なあなあ日常~』

2014年/DOP/カラー/116分
監督・脚本：矢口史靖/原作：三浦しをん/撮影：芦澤明子/出演：染谷将太、長澤まさみ、伊藤英明

三浦しをんのベストセラー小説を映画化。都会を離れ、林業に従事することになった若者の成長を描く。監督の綿密な取材ネタが随所に散りばめられ、笑いと感動に溢れた本作のクライマックスシーン、その秘密が今明かされる！

第二部 上映作品 間もなく発表！

第一部の終了後、休憩ののちに第二部の開始です。観客も、パネラーも、ナビゲーターも、みんな仰天、みんな盛り上がる。ある作品を上映し、その興奮のままに大トークを展開！

「映画監督への道 ~私を駆り立てるもの~」

現在、第一線で活躍する2名の若手監督をお招きし、「映画監督とは何か？何が映画を撮らせているのか？」に迫る特別企画の登場。監督セレクト作品の上映と共に、たっぷりのトーク&質疑応答で構成する、映画を志す人必見のプログラム！

山下敦弘監督に聞く 「リズムは獲得できるのか？」

独特のリズムとユーモア、そしてシニカルな現実認識で熱狂的なファンを持つ山下敦弘監督に、映画づくりにあったほうがいいあれこれを伺います。映画づくりはセンスや感覚で決まるのか、技術の取得でこそなのか。参考作品とトークで、映画の神髄に迫ります。



監督
来場予定

やましたのぶひろ/映画監督/大阪芸術大学の卒業制作「どんてん生活」で注目を浴びる。代表作に「リンドラ リンドラ リンドラ」「天然コケッコー」「もらとりあむタマ子」など。

▶9/21[日]14:15~ 上映作品『BU・SU』

市川準監督作品/1987年



石井裕也監督に聞く 「不安は克服できるのか？」

一作一作、着実にあり、そして急速な成長をみせる石井裕也監督に、これまでの体験を通し、自らのハードルを上げ続けるときに発見した、秘訣の数々を披露いただきます。それは、全ての未体験の「仕事」に向かう人々にとっても、ヒント満載の話になる予感がします。



監督
来場予定

いしい・ゆうや/映画監督/1983年生まれ。「剥き出しっぽん」でPFFアワード2007グランプリを受賞。代表作に、「川」の底からこんにちは」「舟を編む」「ぼくたちの家族」など。

▶9/23[火・祝]18:00~ 上映作品『ぼくたちの家族』

石井裕也監督作品/2013年



[招待作品部門]

今年の招待作品部門は、特撮、SF、ちょっと不思議、な映画に焦点を当てました。想像力、をかたちにする映画と、つくり手たちです。映画は何でもできる!そんな原初的な喜びを浴びていただきたいプログラムです。

上映作品の詳細は決定次第、HPにて発表します。

Invited Works

第36回 PFF 検索

「見えない特撮」って何? 「素晴らしい特撮の世界」

CG全盛の今改めて「ミニチュア撮影」や、自然現象を演出する「操演」など、観客からは「見えない」特撮の舞台裏と手仕事へのこだわりを、まさかの豪華ゲストが、特別に上映する2作品や自身の参加作品を題材に、縦横無尽に語る特別二部構成豪華プログラム再び登場! これはやばい...

ナビゲーター: 犬童一心 (いぬどう いっしん / 映画監督)
「ジョゼと虎と魚たち」「メゾン・ド・ヒミコ」「ゼロの焦点」「のぼうの城」など。

ゲスト
来場予定

パネラー: 尾上克郎 (おのうえ かつろう / 特撮監督)
「日本沈没」「のぼうの城」「巨神兵東京に現わる」「進撃の巨人」など。

佛田 洋 (ぶつだ ひろし / 特撮監督)
「仮面ライダー」シリーズ、「スーパードンパッチ」シリーズなど。

樋口真嗣 (ひぐち しんじ / 映画監督)
「ガメラ 大怪獣空中決戦」「ローレライ」「のぼうの城」「進撃の巨人」など。

矢口史靖 (やぐち しのぶ / 映画監督)
「ウォーターボーイズ」「スウィングガールズ」「ロボジー」「WOOD JOB!〜神去なあなあ日常〜」など。

こんな映画をつくった人たちが、2本の映画上映と、合計2時間を超えるトークで伝える、特撮の力!

第一部 「WOOD JOB!」のひみつ大公開 ▶9/20(土)11:00~

まだ劇場公開が記憶に新しい本作の、あのシーンはどうやって完成したのか? 命がけの撮影の秘密が今明かされる! 全員一緒に「WOOD JOB!」をみて、一緒にその秘密をわけあう、スリリングなここだけの時間の到来!



「WOOD JOB!〜神去なあなあ日常〜」
2014年/DCP/カラー/116分
監督・脚本: 矢口史靖 / 原作: 三浦しをん / 撮影: 芦澤明子 / 出演: 染谷将太、長澤まさみ、伊藤英明
三浦しをんのベストセラー小説を映画化。都会を離れ、林業に従事することになった若者の成長を描く。監督の綿密な取材ネタが随所に散りばめられ、笑いも感動に溢れた本作のクライマックスシーン、その秘密が今明かされる!

第二部 上映作品 間もなく発表! HPにて発表します。お楽しみに!

第一部の終了後、休憩ののちに第二部の開始です。観客も、パネラーも、ナビゲーターも、みんな仰天、みんな盛り上がる、ある作品を上映し、その興奮のままに大トークを展開!

若手監督をお招きし、「映画監督とは何か?何が映画を撮らせているのか」に迫る特別企画の登場。に、たっぷりのトーク&質疑応答で構成する、映画を志す人必見のプログラム!

「何か?」

成長をみせる石井裕也監督。ハードルを上げ続けるとききます。それは、全ての未来、ヒント満載の話になる



▶9/23(火・祝)18:00~
上映作品 『ぼくたちの家族』
石井裕也監督作品/2013年



ワンピース20周年記念企画 「ようこそワンピース体験へ!」

「ワンピース」とは、矢口史靖監督&鈴木卓爾監督の2人が、職業映画監督として歩き始めたばかりの「暇で金がない」1994年に、「とにかく映画を撮り続けたい!」と編み出した、ミニマル映画製作術。アニメーションではありません。アニメーションではありせん。「予算と時間を割かず」に撮る「ために制約を設けたことが工夫とアイデアを生み、その固定された画面からは、映画の純粋な楽しさがほとばしる! みると簡単、やるとすごい技術に驚く、究極の、すぐに役立つ「映画脳の体操」。是非お試しあれ!

特報!
両監督とも、この企画のために只今新作を撮り下ろし中!
プログラムの詳細はHPにて発表します。

- 【ワンピースの制作ルール】
 - ①固定カメラで撮る
 - ②撮影中はカメラに一切触れない
 - ③1話1シーン1カット完結
 - ④アフレコや音楽ダビング、編集はしない

ベストセレクション +お蔵出し+新作発表! ▶9/20(土)18:00~

10分前後のワンピースを10ピースほどの上映 &両監督のトークを予定しています。



矢口史靖 (やぐち し のぶ)
映画監督/1967年生まれ。「ウォーターボーイズ」で注目されて以降、最新作「WOOD JOB!〜神去なあなあ日常〜」まで、第一線を走り続けている。

鈴木卓爾 (すずき たくじ)
映画監督/1967年生まれ。「ゲゲの女房」、「楽隊のうさぎ」などを監督する傍ら、「GUT」(アミール・ナデリ監督)などで、俳優としても活躍。



両監督
来場予定

画監督/1983年生まれ。PFFアワード2007年表作に、『川の底からこんにちは』など。

映画の想像力が炸裂する

「SF・怪奇映画特集」

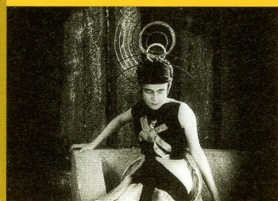
現実をちょっと越えてみると、作家たちは、自らの想像力を爆発させることができる。自由な発想が形になってゆく喜び、比喩の中にこっそり落ませた皮肉、観る者/時代によって様々に変化する解釈。SFそして怪奇映画の魅力を再確認!

5

『アエリータ』Аэлита

9/20[土]12:00～(小ホール)

1924年/35mm/モノクロ/無声/84分/ソ連



監督・脚本:ヤーコフ・プロタザノフ/原作:脚本:アレクセイ・トルストイ/出演:ユーリア・ソーンツェワ、ニコライ・ツェレトリ、ワレンチナクウヅ

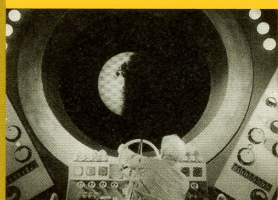
火星で爆発する愛と革命とアヴァンギャルド

技師ロシーは、浮気を疑い妻を殺してしまう。建設中の宇宙船で火星へ逃げたロシーは、憧れの火星の女王アエリータと恋に落ちるが、同行した赤軍兵士が火星に革命を起こす。ロシア・アヴァンギャルド美術による火星のイメージは『メトロポリス』の先駆をなす。

『宇宙飛行』Космический рейс

9/20[土]14:00～(小ホール)

1935年/35mm/モノクロ/70分/ソ連



監督:ワシリー・ジュラヴリョフ/脚本:アレクサンドル・フィリモノフ/撮影:アレクサンドル・ガリバリノ/出演:セルゲイ・コマロフ、ワシリー・コヴァリギン、ニコライ・フェオクチストフ

科学考証をもとに宇宙旅行を描く先駆的作品

初の月世界旅行をめざす教授が、慎重派の教授の反対を押し切って有人宇宙飛行を実現、月までの往復を果たす。現代的ロケット工学の理論を最初につくった科学者ツィオルコフスキーが監修し、本人も所長役で登場する。科学考証を踏まえたソ連初の本格SF映画。

『惑星ソラリス』Солярис

9/20[土]15:45～(小ホール)

1972年/35mm/カラー/165分/ソ連



監督・脚本:アンドレイ・タルコフスキー/原作:スタニスワフ・レム/出演:ナターリヤ・ボンダルチュク、ドナタス・バニオニス、ユーリー・ヤルヴェト

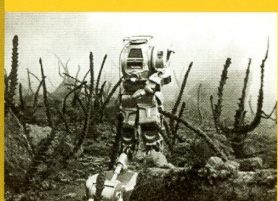
実体化するトラウマから甦る封印された記憶

ソラリス星系の惑星探査で宇宙基地に派遣されたクリス。そこに死んだはずの妻が現れる。実体化するトラウマに基地は混乱し、クリスもまた意識の底に封印した自分自身の記憶と対峙する。異質な知性とのコンタクトを描くポーランドの作家レムの代表作の映画化。

『火を噴く惑星』Планета бурь

9/21[日]13:00～(小ホール)

1961年/35mm/カラー/83分/ソ連



監督・脚本:パーヴェル・クルジャンツェフ/脚本:アレクサンドル・カザンツェフ/撮影:アルカージェー・クリモフ/出演:ウラジミール・エメリヤノフ、ゲオルギー・ジジョーフ、ゲンナジー・ヴェルノフ

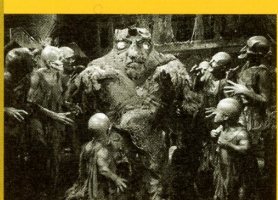
『スター・ウォーズ』を生んだ宇宙冒険映画

当時まだ謎に包まれていた金星。そこへ派遣された国際調査隊は、宇宙船の爆発や国の対立などさまざまな障害を乗り越え、調査を進める。金星の未知の生物やロボットの世界など見どころが満載で、ルーカスをはじめハリウッドの映画人にも多大な影響を与えた。

『妖婆、死棺の呪い』Вий

9/21[日]15:00～(小ホール)

1967年/35mm/カラー/73分/ソ連



監督:コンスタンチン・エルショフ、ゲオルギー・クローチェフ/撮影:フォードル・プロヴォロフ/出演:レオニード・クラヴリョフ、ナターリヤ・ワルレイ、アレクセイ・グラスリン

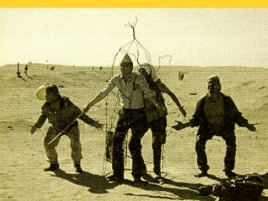
棺桶が空を飛び、妖怪がわき出すホラー怪作

夏休みを迎えたウクライナ。神学生ホマーは故郷へ帰る道すがら、魔女と対決して撃退する。ある村で、死んだ若い娘への祈とうを頼まれ、教会で三日三晩過ごすことになるが、そこに妖怪たちが満載で、ルーカスをはじめハリウッドの映画人にも多大な影響を与えた。

『不思議惑星 キン・ザ・ザ』Кин-дза-дза!

9/21[日]17:00～(小ホール)

1986年/35mm/カラー/135分/ソ連



監督・脚本:ゲオルギー・タナリヤ/脚本:レヴァス・ガブリアゼ/撮影:パーヴェル・レバシエフ/出演:スタニスラフ・リュブシン、エフゲニー・レオーノフ、ユーリー・ヤコヴレフ

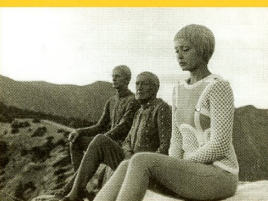
ソビエト不条理SFコメディの金字塔

ソ連に暮らす中年男と学生が、街なかで会ったホームレス風の男の持つ装置でキン・ザ・ザ星系の惑星ブリュクに瞬間移動させられる。地球とは言葉も習慣も価値観も違う世界で二人は珍道中を繰り広げ、やがて階級社会の不条理に気づく。カルト的人気を誇る怪作。

『エバンス博士の沈黙』Молчание доктора Ивенса

9/23[火・祝]13:00～(小ホール)

1973年/35mm/カラー/90分/ソ連



監督・脚本:フジミール・メタリニコフ/撮影:ユーリー・ソコロフ/出演:セルゲイ・ボンダルチュク、ジャンナ・ポロワ、イリーナ・スコプツェワ

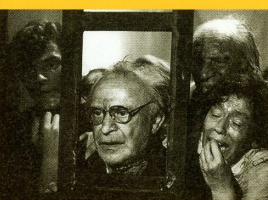
KGBに追われる異星人と科学者のロマンス

事故に遭った飛行機の乗客が、異星人に救出される。ところが、宇宙船が軍隊の攻撃を受け、異星人は救出した地球人の記憶を消して地球へ戻す。ひとりだけ記憶の残るエバンス博士のもとを異星人の女性が訪れ、KGBとの追跡劇が始まる。

『死者からの手紙』Письма мёртвого человека

9/23[火・祝]15:00～(小ホール)

1986年/35mm/カラー/88分/ソ連



監督・脚本:コンスタンチン・ロプシヤンスキー/脚本:ヴァジェスラフ・ボリス、ボリス・ストルガツキー/出演:ロラン・ブイコ、イオシフ・フルクリン、ヴァクトル・ミハイロフ

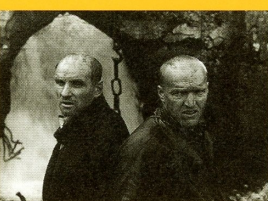
“核の冬”が訪れた世界の日常を描く問題作

想定外のミスから起きた核戦争で“核の冬”が訪れた世界。核シェルターに入らず博物館の地下に逃げ込み、緩慢な死を迎えつつある人々の日常を描き、生きる意味を問ひかける。監督は「スターカー」で助監督を務め、放射能に満ちた世界を描く映画を多く作った。

『スターカー』Сталкер

9/23[火・祝]17:00～(小ホール)

1979年/35mm/カラー/160分/ソ連



監督:アンドレイ・タルコフスキー/脚本:アルカージェー・ストルガツキー、ボリス・ストルガツキー/出演:アレクサンドル・カイダフスキー、アリーサ・フレインドリス、アナトリー・ニコニツィン

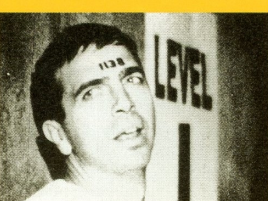
欲望、願い、望み……人間の心の闇と希望

立入禁止の「ゾーン」は奇妙な翼に満ちているが、その中心にある部屋に行けば、本当の望みがかなうという。案内人スターカーに導かれゾーンに不法侵入した二人の男は、自分の本当の望みとは何かを考えはじめる。ストルガツキー兄弟の原作を独自の解釈で映画化。

『THX 1138』(15分版) Electronic Labyrinth: THX 1138 4EB

9/24[水]15:00～

1967年/16mm/カラー/15分/アメリカ



監督・脚本:ジョージ・ルーカス/撮影:F.E.ジップ・ジーマン/編集:ダン・ナッチシム/出演:アレクサンドル・カイダフスキー、ジョー・カーミッシュ、デヴィッド・マンソン

ジョージ・ルーカスの原点、幻のデビュー作

25世紀、人類は地下シェルターでコンピューターに支配され、番号で管理されている。THX-1138は、ルーカスの女性とともに精神安定剤の服用をやめ、二人は愛し合う。コンピューターは二人を逮捕し引き離すが……。ルーカス監督の原点を示す幻のデビュー作。

『ダーク・スター』Dark Star

[THX 1138]と併映

1974年/35mm/カラー/83分/アメリカ



監督・脚本:ジョン・カーベンター/脚本:ダン・オパノン/製作総指揮:ジャック・H・ハリス/出演:ダン・オパノン、ブライアン・ナレル、ドレハピッチ

宇宙でサーフィン? 噂のSFカルト映画

21世紀半ば、探査船ダーク・スター号は、新天地を求めて遠い宇宙の彼方を飛んでいた。ある日、流星群への突入で船内の爆弾が故障してしまう。低予算ながら随所に込められた秀逸なアイデアと変わらぬ作家性に驚嘆する、奇才ジョン・カーベンター長編デビュー作。

Time Table

監督の来場予定およびゲスト来場の追加情報は随時HPで発表します。

Ticket

チケット一覧

●ゲスト来場予定

開場は開演時間の15分前を予定。ほぼ毎回開始時間が変わります。ご注意ください!

第36回 PFF

検索

9:13 [土]	大ホール	11:30~G PFFアワード A 「ナイアガラ」 「人に非ず」	PFF Award	14:30~G PFFアワード B 「ひこぎ雲」 「埋み火」 「反駁」	PFF Award	18:00~G PFFアワード C 「小さな庭園」「暁の石」 「ガンバレとかうるせえ」	PFF Award
14 [日]		11:30~G PFFアワード D 「彼は月へ行った」 「丸」	PFF Award	14:30~G PFFアワード E 「波伝谷に生きる人びと」 「乱波」	PFF Award	18:00~G PFFアワード F 「怪獣の日」 「沖繩/大和」	PFF Award
15月・祝		休館日					
16 [火]	東京国立近代美術館フィルムセンター・大ホール	12:00~G PFFアワード G 「多摩丘陵の熊」 「独裁者、古賀。」	PFF Award	15:30~G PFFアワード H 「流れる」「還るばしょ」 「Super Tandem」	PFF Award	18:30~G PFFアワード I 「ネオ桃太郎」 「モーターズ」	PFF Award
17 [水]		12:00~G PFFアワード C 「小さな庭園」「暁の石」 「ガンバレとかうるせえ」	PFF Award	15:30~G PFFアワード B 「ひこぎ雲」 「埋み火」 「反駁」	PFF Award	18:30~G PFFアワード A 「ナイアガラ」 「人に非ず」	PFF Award
18 [木]		12:00~G PFFアワード E 「波伝谷に生きる人びと」 「乱波」	PFF Award	15:30~G PFFアワード D 「彼は月へ行った」 「丸」	PFF Award	18:30~G PFFアワード H 「流れる」「還るばしょ」 「Super Tandem」	PFF Award
19 [金]		12:00~G PFFアワード F 「怪獣の日」 「沖繩/大和」	PFF Award	15:30~G PFFアワード I 「ネオ桃太郎」 「モーターズ」	PFF Award	18:30~G PFFアワード G 「多摩丘陵の熊」 「独裁者、古賀。」	PFF Award
20 [土]		11:00~G 素晴らしい特撮の世界 第一部「WOOD JOB!」のみみつ大公開 第二部 上映作品間もなく発表! ※上映作品は、HPにて発表	Invited Works	3	Invited Works	18:00~G よろこ ワンピース体験! Invited Works ベストセレクション+お蔵出し +新作発表! ※上映作品は、HPにて発表	4
	小ホール	12:00~ SF-怪奇映画特集 「アエリタ」 Аэлита	Invited Works	5	Invited Works	15:45~ SF-怪奇映画特集 「宇宙飛行」 Космический рейс	Invited Works
21 [日]	大ホール	12:00~G 羽仁進監督特集 「教室の子供たち」 「絵を描く子どもたち」	Special Program	1	Special Program	14:15~G 映画監督への道 山下敦弘監督に聞く 「リズムは獲得できるのか?」	2
	小ホール	13:00~ SF-怪奇映画特集 「火を喰く惑星」 Планета бурь	Invited Works	5	Invited Works	15:00~ SF-怪奇映画特集 「妖婆、死棺の呪い」 Вий	Invited Works
22月		休館日					
23 [火・祝]	大ホール	11:30~G 羽仁進監督特集 「恋の大冒険」	Special Program	1	Special Program	14:30~G 羽仁進監督特集 「初恋・地獄篇」	2
	小ホール	13:00~ SF-怪奇映画特集 「エンス博士の沈黙」 Молчание доктора Ивенса	Invited Works	5	Invited Works	15:00~ SF-怪奇映画特集 「死者からの手紙」 Письма мёртвого человека	Invited Works
24 [水]	大ホール	12:30~ 羽仁進監督特集 「手をつなぐ子ら」	Special Program	1	Special Program	15:00~ SF-怪奇映画特集 「THX 1138」THX 1138 4EB 「ダーク・スター」Dark Star	5
25 [木]		<div style="text-align: center;">  <p>16:30~G PFFアワード2014 表彰式&グランプリ作品上映</p> </div>					

【お問い合わせ】(平日11:00~18:00)
PFF事務局 03-5774-5296

f PiaFilmFestival
@pff_award

※やむを得ない事情により、プログラムおよび来場ゲストが変更になる場合もございます。
全プログラムとも、録画・録音機器、及びPCの会場への持ち込みは禁じられています。

前売券はチケットぴあでのみ発売です。

8月9日[土]プレリザープ受付/16日[土]発売開始

全席指定制

大ホール:定員310名
小ホール:定員151名

コンペティション部門「PFFアワード2014」

Pコード:553-384

前売券 当日券

一般1回券	1,000円	1,200円
高校・大学・シニア	—	800円
障害者・介護者/小学生・中学生	—	520円
表彰式+グランプリ上映/1回券	1,500円	1,500円
表彰式+グランプリ上映/障害者・介護者	—	1,000円

Pコード:465-736

前売券 当日券

PFFアワードフリーパス	7,000円	—
--------------	--------	---

※フリーパスは、限定20枚/表彰式使用可。(カタログ付き)
※フリーパスは、座席指定券との引き換えが必要です。引き換えは、会場1F窓口にて各回上映30分前から開演時刻まで行います。満席の場合は、ご鑑賞いただけない場合がございます。

特別企画

Pコード:553-400

前売券 当日券

一般1回券	1,000円	1,200円
高校・大学・シニア	—	800円
障害者・介護者/小学生・中学生	—	520円

PFFスカラシップ/招待作品部門

Pコード:553-385

前売券 当日券

一般1回券	1,300円	1,500円
高校・大学・シニア	—	1,000円
障害者・介護者/小学生・中学生	—	520円
素晴らしい特撮の世界/1回券	2,000円	2,500円
素晴らしい特撮の世界/障害者・介護者	—	2,000円

キャンパスメンバーズ「当日」割引 実施!


○国立美術館キャンパスメンバーズの方は、学生証・職員証のご提示により当日料金が割引になります。詳しくは「第36回PFFJHP」をご覧ください。(一部プログラムを除く)

ぴあ映画生活クーポン「当日」割引 実施!

○窓口にてクーポン提示で、前売券の料金でご覧いただけます。(表彰式&グランプリ作品上映、素晴らしい特撮の世界は除く) 詳しくは「第36回PFFJHP」をチェック!

【前売券の販売について】

前売券はチケットぴあでのみ発売です。

- ※フィルムセンター窓口での販売はございません。
- チケットぴあ、サークルK・サンクス、セブン-イレブンの店舗で直接購入する場合、発券手数料として108円/枚がかかります。
- インターネット、電話予約にて購入された場合、発券手数料およびシステム使用料として、324円/枚がかかります。
- チケットぴあ音声認識予約:0570-02-9999 
- 前売券の電話予約は各上映日の5日前まで、直接購入は各上映日の2日前までとなります。
- 前売券の払い戻し、交換、再発行はいたしません。

【当日券の販売について】

- 当日券は、各回1名につき1枚販売いたします。
- 当日券(当日、当該枠のみ有効)は、会場1F窓口にて各回上映30分前から開演時刻まで販売します。
- 開映後の当日券の販売はいたしません(前売券をお持ちの方に限り途中入場可)。
- 当日券の有無は、各上映の前日に次のホームページで確認することができます。 <http://www.momat.go.jp/>
- 学生・シニア(65歳以上)、障害者の方は証明できるものをご提示ください。障害者・介護者は原則1名まで障害者と同じ料金でご入場いただけます。

【指定席について】

- 全席指定です。「前方」「中央」「後方」のいずれかを選んでご購入いただけますが、ご希望に添えない場合がございます。
- 上映開始後はお手持ちのチケットのお席にご案内できない場合がございます。お時間に余裕を持ってお越しください。

東京国立近代美術館フィルムセンター

- 銀座線「京橋駅」1番出口より昭和通り方向へ徒歩1分
- 浅草線「宝町駅」A4出口より中央通り方向へ徒歩1分
- 有楽町線「銀座一丁目駅」7番出口より徒歩5分
- JR「東京駅」八重洲南口より徒歩10分

あなたの投票で決まる「観客賞」に参加しよう!

21作品が競うコンペティション「PFFアワード2014」

※監督の年齢は応募時のものです。
※上映後、来場監督とのトークを予定しています。

PFF Award

H



『流れる』

13分/カラー

監督: 橋本将英 (16歳/福岡県出身)

心があれば、言葉はいらないはずだった

すぐそばを川が流れる公園で暮らす少年。彼はある時、傍らに置かれた小石の存在に気づく。小石と共に、公園と川との間の狭い空間を転々と行き来する少年。し

かし、ある時小石は忽然と消えてしまう。一切のセリフを排し、たったひとりの登場人物と彼の所持する石との不思議な関係を描く。

『還るばしょ』

36分/カラー

監督: 塚田万理奈 (22歳/長野県出身)

日常の中で少しずつ溜まっていく澱を、いま

歯科衛生士として働くちかげは毎日を淡々と過ごしている。女友達の家に泊まりに行くと彼氏を許し、付き合っている意味を同僚からも問われ、姉には「ちかげってな

んかつまんそ一だよね」と言われても、それが幸せとも不幸とも感じていなかった。そんな日常が少しずつ、ちかげ自身を受け入れさせなくなっていく…。

『Super Tandem』

40分/カラー

監督: 小林勇貴 (23歳/静岡県出身)

若さと善意と衝動が承認欲求を求めて暴走

自警団を結成した大石と悪友荻田。万引き犯を成敗するも、待ち受けるのは暴走族の復讐劇。それでも己が信ずる方向へ! 襲いかかる映像と音楽の洪水に隠された純

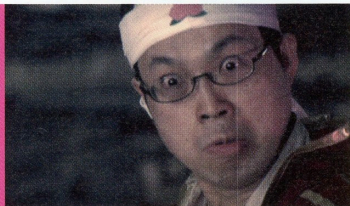
粋な思い。人のために、善のために動けるか。監督は地元富士宮の若者に愛を持って、時に自虐的なまでに演出し、ひねくれた自身を映画のフレームで見事描ききった。

▶ 9/16[火]
15:30~
▶ 9/18[木]
18:30~



PFF Award

I



『ネオ桃太郎』

20分/カラー

監督: 小田 学 (33歳/埼玉県出身)

各自のエゴが激突!現場は修羅場と化す…

大学の映画サークルの熱き連中が廃工場で撮影中…タイトルは「ネオ桃太郎」だ! が! 監督は夢中過ぎて周りが見えてない。主演は無闇に役に入り込んでいる。

撮影監督はサークルOBで扱いづらい。現場で女口説いている奴がいる…さまざまな撮影リアルを乗り越えて、さあ「ネオ桃太郎」は完成できるのかーっ!?

『モーターズ』

83分/カラー

監督: 渡辺大知 (23歳/兵庫県出身)

俺の脳内に『BE MY BABY』が流れた

田舎の整備工場で働く田中は、うだつのあがらない日々を過ごしている。新入りのたけおもバンドがしたくて仕事をすぐ辞めることになると、職場の面々は彼を優しく迎

える。そんな中、一組のカップルが車の修理にやってくる。その彼女に淡い恋心を抱く田中だったが…不器用だけど愛らしい人間模様が映画の時間を充たしていく。

▶ 9/16[火]
18:30~
▶ 9/19[金]
15:30~



第23回PFFスカラシップ作品『過ぐる日のやまねこ』プレミア上映

PFF Scholarship Films

PFFが企画から劇場公開までをトータルプロデュースする映画製作支援システム「PFFスカラシップ」。「くじらのまち」でPFFアワード2012グランプリとジェムストーン賞(日活賞)をW受賞した鶴岡慧子監督による、スカラシップ最新作「過ぐる日のやまねこ」を初お披露目します!

監督: 鶴岡慧子 (つるおか けいこ)

1988年生まれ、長野県出身。立教大学の卒業制作「くじらのまち」はPFFアワード2012入選後、ベルリン国際映画祭をはじめ世界10ヶ国以上で上映。



『過ぐる日のやまねこ』

▶ 9/24[水]18:00~

2014年/90分(予定)/カラー

監督・脚本: 鶴岡慧子 / 出演: 木下美咲、泉澤祐希、植木祥平、中川真桜、田中隆三

東京の喧騒から逃れるように、かつて暮らした田舎町に辿り着いた時子と、そこで孤独な毎日を送る高校生高陽平。身近な

人の死に囚われ続ける二人が出会い、やがて明らかになる真実は…。未来に希望を見出す人間ドラマの誕生!

